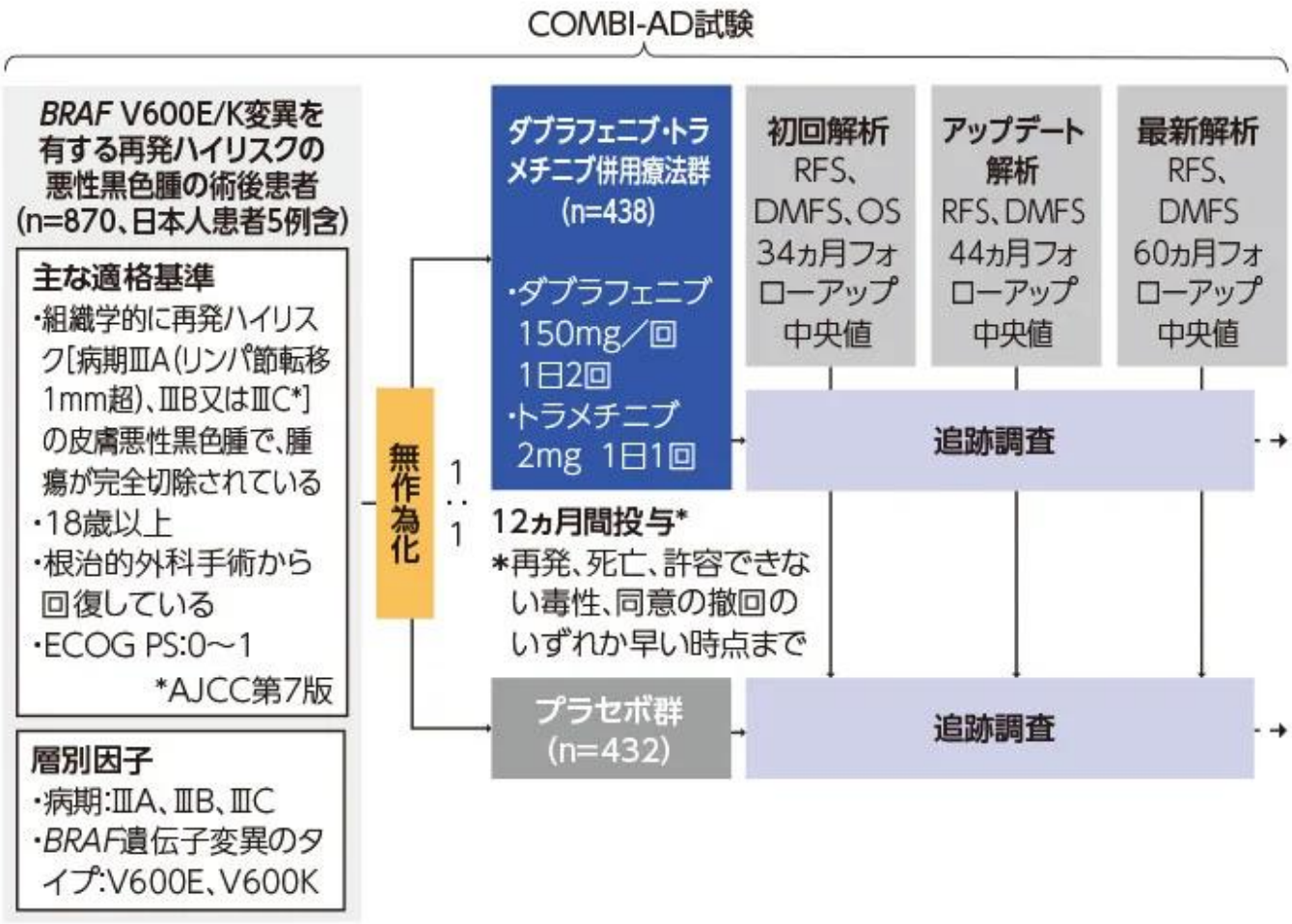

悪性黒色腫（メラノーマ）□**Phase III COMBI-AD**試験

COMBI-AD試験 試験概要

試験方法

Image

データカットオフ: 初回解析 2017年6月30日
アップデート解析 2018年4月30日
最新解析 2019年11月8日

RFS, Relapse Free Survival; OS: Overall Survival; DMFS: Distant Metastasis Free Survival:

FFR: Freedom From Relapse,

Long, GV. et al.N. Engl. J. Med. 2017; 377（19）: 1813-1823（20180231
4
10
Ⅲ F2301 2018（7（2 CTD2.7.6.4.1.1.
（20180229）Hauschild, A. et al.）J. Clin. Oncol. 2018; 36（35）: 3441-3449
4 /
17
Dummer, R. et al.）N. Engl. J. Med. 2020; 383（12）: 1139-1148
3

BRAF V600E/K Ⅲ（AJCC（7

BRAF V600E/K Ⅲ（AJCC（7 ⅢA 1mm ⅢB ⅢC
870）

RFS）

OS

RFS
Kaplan-Meier log-rank Pike
（95%CI A mixed Weibull cure-ratemode）l
OS
Kaplan-Meier log-rank

Hauschild, A. et al）. J. Clin. Oncol. 2018; 36（35）: 3441-3449
4 /
17
Dummer, R. et al）. N. Engl. J. Med. 2020; 383（12）: 1139-1148
3

RFS

Image

データカットオフ: 2019年11月8日

Dummer, R. et al: . N. Engl. J. Med. 2020; 383 (12) : 1139-1148【利益相反】本研究はノバルティスファーマ（ノバルティス）の支援で実施した。ノバルティス社員が著者に3名含まれている。ノバルティスよりメディカルライティングについてのサポートを受けている。

安全性<副次評価項目>

- 副作用はダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法群の398/435例（92%）、プラセボ群の272/432例（63%）に認められた。主なものは、ダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法群では発熱244例（56%）、疲労170例（39%）、悪寒155例（36%）等、プラセボ群では疲労85例（20%）、悪心52例（12%）、頭痛50例（12%）等であった。
- 重篤な有害事象は、ダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法群では155例に認められた。発現率1%以上の重篤な有害事象は、ダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法群では発熱67例、悪寒及び駆出率減少各13例、丹毒8例等であった。
- 投与中止に至った有害事象は、ダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法群では114例に認められた。発現率1%以上の投与中止に至った有害事象は、ダブラフェニブ・トラメチニブ併用療法群では発熱38例、悪寒16例、疲労8例等であった。

- 本試験において副作用による死亡例は認められなかった。

  データカットオフ: 2019年11月8日

  Dummer, R. et al: . N. Engl. J. Med. 2020; 383 (12) : 1139-1148【利益相反】本研究はノバルティスファーマ（ノバルティス）の支援で実施した。ノバルティス社員が著者に3名含まれている。ノバルティスよりメディカルライティングについてのサポートを受けている。
  Long, GV. et al: . N. Engl. J. Med. 2017; 377 (19) : 1813-1823〔20180231〕【利益相反】本研 究はノ

□□□